

## 一人一人の質の高い学びの実現に向けた健康教育

～これからの創造し、多様な選択を尊重して支え合う力を養う～

養護教諭 内田 貴美子

### 1 研究主題について

目まぐるしく変化する社会の中で、子供達を取り巻く状況も刻々と変化している。このような予測不可能な時代にあって、学校における健康教育には、子供達が学習し生活する学校において健康で安全な生活を送ることができること、生涯にわたって健康で安全な生活や健全な食生活を送るために必要な資質・能力を育み、安全で安心な社会づくりに貢献できるようにすることが求められている<sup>1)</sup>。

さて、学校保健における評価について考えると、そもそも養護教諭は学校で唯一「評価をしない存在」であり、そこに安心感をおぼえる子供もいる。一方、健康教育の視点で考えれば、子供の変容を確認するために評価は欠かせない。そこで「一人一人の質の高い学びの実現に向けた健康教育」を研究主題とし、一人一人に学びを生み出す授業改善に焦点を当て、研究をすすめることとした。

### 2 保健授業の課題について

保健について学ぶ意味は、子供たちが自他の生活における健康に関する基本的な知識を身に付け、適切な意思決定や行動選択をすることができる資質・能力を身に付けることである。とくに、中学生は論理的な思考をすることができるようになってきたり、科学的な原理原則に基づいた学びができるようになってきたりする発達段階にある。ところが、従来の保健授業には、教師から一方的に教える知識伝達型の授業、単に『健康』は大切である」と教条的に教えてしまう授業が少なからずあった<sup>2)</sup>。

### 3 保健授業のデザイン～わからない、から始まる授業・対話を引き出す発展的な課題～

一人一人の質の高い学びの実現に向けた授業改善として、学校保健では「高い課題に支えられた授業」を提案したい。この授業デザインでは、「背伸びとジャンプ」という考え方を参考にし、授業の初めに「クラスの誰もがわからない課題」を設定する。このように子供達が高いレベルの学びに挑戦する機会を提供することで、一人残らず学ぶ権利を得られるようにするのである<sup>3)</sup>。ただし、ここでいう課題とは、全く解ける予感のない課題ではなく、諦めずに取り組んだら解けそうな課題、あるいは他者との協働によって解けそうなレベルの課題である。

### 4 保健授業の評価について

保健授業における評価は、授業内での評価と子供達が学びを自他の生活に生かす場面の二段階ある。中学校保健体育科保健分野の四つの単元のうち、二つの単元では、授業を通して技能を身に付けられるようにすることが示されており、授業内でも技能を評価することができる。一方、他の二つの単元では知識の習得となっており、子供達が現在あるいは将来の生活の中で保健の学びを生かす姿を想像して評価することになる。ここに保健分野の評価の難しさがあるといえる。そこで、学校保健では、子供達一人一人が質の高い学びを得られるような授業を実践し、とくに思考・判断・表現をはかる場面において、知識を用いて課題に取り組む様子や考えを表現したり記述したりする様子などを通して、評価をしていく。

### 5 参観の視点について

- 授業を通して、一人一人が学びを得られていたか。また、何を学んでいたか。
- 学びを生み出せなかった場合、その原因はどこにあったか。
- 高い課題に支えられた授業デザインとして、教材は適切に機能していたか。

#### <引用・参考文献>

- 1) 文部科学省 (2020) 『改訂「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き』
- 2) 3) 七木田 文彦 (2021) 『保健授業の挑戦—学びの創造とデザイン—』大修館書店